

令和2年度 地域懇談会

～市長と語る会～

事前意見 及び 回答

令和2年（2020年）9月

瑞浪市

地区名	瑞浪（小田）地区	番号	1
タイトル	雨天でも安心して利用できる中央公園		
ご意見の内容			
<p>中央公園は、瑞浪市の指定緊急避難場所に指定されているほか、瑞浪小学校、瑞浪幼稚園の授業参観、運動会等の駐車場、瑞浪市消防団の訓練会場、上小田連合区のサマーフェスティバル（850名以上参加）会場、農業祭の会場等、多目的に多くの方が利用しています。</p> <p>市長さんもお存知と思いますが雨が降ると、祭りや駐車場使用時に多くの方が公園内を歩くとドロドロになりゴム長靴を履かないと歩けない状態になります。</p> <p>数年前に中央公園の水はけを良くするようにお願いしたところ、瑞浪北中学校の建築工事の終了後に考えますと返事を頂きました。</p> <p>コロナウイルスの対策で大変な時ですが、中央公園の地盤改良の予定地等、示していただければと思います。</p> <p>なお、中央公園にて早朝に中京高校や中京学院大学生がランニングの練習や、夕方に小中学生が陸上の練習をしています。公園内にランニングコース等を作っていただければと思います。</p>			
市長の回答	担当課	都市計画課	
<p>（地盤改良）</p> <p>中央公園を多くの方にご利用いただきありがとうございます。市でもイベントの企画や駐車場として活用しておりますが、グラウンド改良の予定は今のところございません。一部、排水溝の設置など排水機能の改良を行いました。全面的な改良には至っておりません。降雨時及び降雨後しばらくは土であるグラウンドの特性上、歩きづらいなどの難がございますが、ご理解いただきたいと思っております。</p> <p>（ランニングコース設置）</p> <p>中央公園は広く、建築物などの障害物が少ないことが利点で、利用者の方が思い思いの利用の仕方をされる公園となっています。ランニングコースを設置してしまうと、他利用者の自由度を損なう恐れがありますので、ランニングコース設置は現在考えておりません。小中学生や高校生、大学生の陸上練習は、平成30年度に再整備しました市民公園内の陸上競技場を活用していただきたいと思いますと考えております。</p>			

地区名	瑞浪（小田）地区	番号	2
タイトル	緑あふれる自然を生かした森林公園		
ご意見の内容			
<p>瑞浪市は山間部に位置しており、自然環境に恵まれているにも関わらず、市街地の開発ばかりに注視されており、山林や川池がほとんど有効利用されていないと思います。森の中に屋外BBQ場やキャンプ場、アスレチック遊具などの県内外から訪れてもらえるような所が市内に2、3箇所あると、市民も活気づくと思います。</p>			
市長の回答	担当課	農林課	
<p>明世町戸狩には、市民公園の陸上競技場の東側から清来寺まで「ピカリアの森」という散策路がありますので、散歩でご利用いただければと思います。</p> <p>森の中ではございませんが、現在、きなあた瑞浪の北側敷地にBBQの建設を計画しております。県内外から多くの方々が来場され、活気のある施設を目指して整備する予定ですので、完成の折には、ぜひご利用いただければと思います。</p>			

地区名	瑞浪（寺河戸）地区	番号	1
タイトル	コロナショックで市税が心配		
ご意見の内容			
<p>新型コロナウイルス感染拡大が心配ですが、今後の暮らしについても不安ですし「3密」の回避（密集、密接、密閉）を含めた「新しい生活様式」をどこまで実践できるのか心配しています。ご相談ですが、コロナショックで会社の売り上げ減少などで市税の収入が減少すると思いますが、瑞浪市の台所は大丈夫でしょうか？ 市民税や固定資産税・軽自動車税等の値上げはないでしょうね。</p>			
市長の回答	担当課	総務課・税務課	
<p>【総務課】 ご指摘のとおり、法人市民税などの市税収入の減少が見込まれますが、瑞浪市の財政運営に支障をきたすことはありません。市では、緊急時に備え、積み立てておいたお金（基金）があり、必要に応じてこれを使うことも考えています。</p> <p>【税務課】 現時点でコロナ禍に関連して、瑞浪市が独自で税率を上げる計画はありません。</p>			

地区名	稲津地区	番号	1
タイトル	高齢者見守りボランティアの育成について		
ご意見の内容			
<p>少子高齢化が加速する中、核家族化も進む状況は、瑞浪市も避けては通れない。 このような状況下、市として地域における高齢者見守りボランティアの育成を図られたらどうでしょうか。</p> <p>現在、市の事業として弁当の配達、また金融機関・新聞配達等との連携により高齢者の見守り事業が実施されているが、各地区の公民館（コミュニティーセンター）の調理室を利用して、独居老人、老々世帯及び昼間独居・昼間老々世帯に週1回弁当を配達し、安否確認と話をしてくることを目的とします。 材料となる野菜等は、近所の農家（小規模を含む）に協力を求め、米、肉、魚、調味料等については購入します。ボランティアとしての活動を原則としますが、材料費等については市の補助金を希望します。 弁当については、若干の費用をいただくことも必要かと思いますが、できるだけ安価にと思えます。また、弁当は、ボランティアの帰宅時に合わせて配達するなど業者を依頼することなくできればと思えます。</p>			
市長の回答	担当課	高齢福祉課	
<p>高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みを地域包括ケアシステムと言い、市町村が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく取り組みを進めています。その中で、既存の介護保険サービスの提供だけでなく、地域の支え合いの体制づくりの推進により、高齢者を始め、住民が担い手として積極的に参加する等それぞれの地域の実情に応じてサービスの多様化を図り、高齢者のニーズに添えていくことが求められています。</p> <p>市では平成29年10月から高齢者安心支えあい事業をスタートしています。高齢者の見守りを兼ね、話し相手やごみ出し等個人宅へ訪問する活動もあれば、介護保険施設での活動もあります。毎年担い手の養成講座を開催していますが、担い手としての登録者は令和2年3月末において35名です。高齢者への支援に関心のある方はぜひ受講していただきたいと思えます。また、市の配食サービスは週に1回ではありますが、配達時に安否確認も実施しております。</p> <p>ご提案のお弁当の製造・配達を住民の方が主体的に行うことは大変素晴らしいこととあります。要支援者等に対する見守りを兼ねた住民主体の生活支援サービスは、日常生活総合支援事業に位置付けられており、団体への委託や補助が可能な仕組みとなっています。お弁当に係る食費については、原則実費を徴収していただき、配達に係る燃料や活動にかかる保険等の諸経費が補助対象となります。</p>			

地区名	稲津地区	番号	2
タイトル	東濃厚生病院移転の経緯と今後の見込みについて、及び市南部地域から新病院へ至るコミュニティバス等の交通手段の存続について		
ご意見の内容			
<p>新しい東濃厚生病院を瑞浪市中心部と土岐市中心部の中間あたりに設置することが、三者（瑞浪・土岐・JA岐阜厚生連）合意されたと聞かすが、長年にわたり瑞浪市民の公的総合病院として存続した東濃厚生病院が土岐市へ移転することについて、不安を持つ市民も多い。これまでの経緯と、今後予想される瑞浪市の負担や市民生活における変化等について教えていただきたい。</p> <p>また、現在の東濃厚生病院へは、恵南部からの路線バスやコミュニティバスも運行されており、稲津町内からも萩原線としてコミュニティバスが運行されている。この萩原線は小里中心部の商業施設の利用から東濃厚生病院（市中心部）へのアクセスまで、実生活に頼もしい交通手段となっている。</p> <p>東濃厚生病院の市外への移転は、市にとって極めて重大な事業であると思われるが、こういった市民の実生活上の細かなことも拾い併せて、将来も市民が安心して暮らせる瑞浪市であり続けるような取り組みをお願いします。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課・商工課	
<p>【健康づくり課】</p> <p>人口減少や高齢化が急速に進むと予想される中、全国的に深刻な課題となっている医師不足は、この地域でも例外ではなく、両病院においても特定の診療科で医師の確保ができず、診療できない事態や、輪番で対応している救急医療についても今後安定した体制を敷くことが困難な状況となっております。</p> <p>平成28年度に県が作成した地域医療構想では、「特に東濃圏域には同規模の公立病院、公的病院が近隣して立地し、運営主体が同じ病院も複数あるため、病院間の関係の整理、位置づけについて協議、検討を行う」とされており、これを踏まえて、瑞浪市・土岐市・JA岐阜厚生連の3者で、「東濃中部の医療提供体制検討会」を立ち上げ、この地域の将来にわたる安定した医療の確保に向け、協議を重ねてきました。</p> <p>この検討会の中で、1病院化が最も適当で、その建設位置は、両病院の中間地点を基本とし、経営手法は、両市による公設民営とすることが確認されております。</p> <p>病院の規模は、現在の東濃厚生病院より大きくなります。具体的な病床数や設備等はこれからの検討になりますが、二次医療機関としての機能は充実する予定です。</p> <p>また、ご提案いただいたとおり、病院の移転は、市にとって重大な事業となります。建設費、病院維持費等の市の負担につきましても、今後の検討となります。現東濃厚生病院にどのような機能を残すのかも併せて、引き続き慎重に協議を進めていきます。</p> <p>【商工課】</p> <p>瑞浪市のコミュニティバスにつきましては、市民の皆様のご意見を伺いながら、より多くの方に利用していただける運行内容とするため、毎年地区要望の集約と利用者へのアンケート調査を行っております。限られた財源の中、実現可能な件に関しましては、出来る限り細やかに対応し、翌年度以降の運行内容に反映させることで、利便性の向上を図っております。</p> <p>皆様から頂いたご意見、ご要望やアンケート調査の結果を分析し、利用実態や移動ニーズの把握に努めておりますが、コミュニティバスは主に運転免許証を持たない高齢者の通院や買い物等の足として活躍しており、特に地域の中核病院である東濃厚生病院は最も需要が高い目的地となっております。このことから、現在、コミュニティバス9路線中、萩原線を始めとした6路線が東濃厚生病院へ乗り入れるよう経路設定を行い、通院需要への対応を強化しております。</p> <p>今後、東濃厚生病院が土岐市へ移転した場合には、利用需要を把握し必要性を判断した上で、土岐市の公共交通担当部局や鉄道、路線バス、タクシーといった公共交通の事業者と連携し、市内各地域からのアクセスが可能となるよう公共交通体系の見直しを検討すべきと考えております。</p> <p>市民生活を取り巻く状況の変化に応じて、公共交通ネットワークの再構築を進め、どなたでも安心して外出できる暮らしの実現に努めてまいります。</p>			

地区名	釜戸地区	番号	1
タイトル	釜戸町再発見		
ご意見の内容			
<p>釜戸町は、歴史のある町であると共に、名所、史跡が残っております。一つに、白狐温泉は、泉質もさることながら、周辺の薬師堂跡などあり、一帯として改めて足湯場など作り、多くの人々が来ていただける施設が出来ればと思います。</p> <p>また、陣屋跡も貴重ですので、見学地として開発するのはどうかと考えます。</p>			
市長の回答	担当課	商工課	
<p>白狐温泉の神明水については、来訪者や問い合わせも多くあり、観光名所として本市のパンフレットにも掲載して紹介しております。</p> <p>ご提案いただいた新たに観光地として施設整備を行う予定はございませんが、市内に点在する観光地を点でとらえるのではなく、線で結び、周遊いただけるよう、旅行会社等関係各所から意見を伺い、実現可能なプランの検討を進めているところです。</p> <p>なお、JRさわやかウォーキングでは、瑞浪駅から鶴ヶ城、きなあつ瑞浪、櫻堂薬師などをめぐるコースや、釜戸駅から竜吟の滝、中山道大湫宿へのコースが実施されており、多くの方が参加されております。こういったすでにあるプランも含め、魅力ある旅行商品として提案していければと考えています。</p>			

地区名	釜戸地区	番号	2
タイトル	釜戸地区における企業進出の進捗状況について		
ご意見の内容			
<p>釜戸中学校が閉校となり一年余りが過ぎました。跡地には「司企業株式会社」さんの進出が決まっているわけですが、今もってなんらの動きも無いように見受けられます。国道への出入り口に信号機の設置がなされないと、稼働に向けての進展はないような話も聞いています。</p> <p>信号機の設置については、釜戸地区としても要望書を提出しております。現状の「司企業株式会社」さんの稼働進出の計画がどうなっているのか、信号機設置に向けての進捗具合も含めて説明をお願いしたい。</p> <p>また、宿区においては、「生活の木」さんへの土地売却に向けての埋め立て工事が行われています。9月頃の埋め立て完成と聞いていますが、工事は順調に進んでいるのか？ 工事完了後の「生活の木」さんへの売却及び「生活の木」さんのその後の計画がどうなっているのかも合わせて説明願いたい。</p>			
市長の回答	担当課	商工課	
<p>「司企業株式会社」の釜戸中学校跡地への進出計画の状況ですが、校舎と体育館を活用する形で、今年9月初旬より営業所として開業しました。なお、当初計画にあったグラウンドへの物流倉庫の建築については、計画が後ろ倒しになっていると企業側から伺っております。</p> <p>国道19号の信号機設置についてですが、市から岐阜県警察に対し、地元からの要望書を提出しておりますが、先月、警察より、交通量が少ない（司企業株式会社の操業で交通量が増加した場合でも）ため「設置不可」と回答がありました。今後、市としては、信号機の設置はできない中で、当該事業用地の交通安全対策について協力していきたいと考えています。なお、本件については、区長会にご報告させていただいております。</p> <p>宿区の釜戸地区工場用地造成については、今年度中には、概ね造成工事が完了する見込みです。「株式会社生活の木」への当該用地の売却については、国道19号からの進入路に関する国土交通省への協議に必要な当該用地における事業計画を「生活の木」が未だ示していないため、協議が開始できず、売却できる時期がはっきりとしていないのが現状です。</p> <p>本市は現在、「生活の木」に対して、早急に事業計画を示すよう強く要望を続けている状況です。</p>			

地区名	大湫地区	番号	1
タイトル	情報機器を活用した教育環境の充実		
ご意見の内容			
<p>新型コロナウイルスに対する対応で、長期休校が続いており、オンライン授業が話題になっていますが、現在の瑞浪市の教育分野での情報機器環境はどの程度まで進んでいるのでしょうか。</p> <p>大人社会を見回すと、私生活及び就業場所ではパソコンを使用しない場所がないほど普及が進んでおり、先進各国においても情報網の拡充により情報通信技術が国力を左右する時代を迎えています。</p> <p>この際、教育の現場においても、情報機器の整備と活用について戦略的に取り組み、次代を担う子供たちの教育環境を充実する適期ではないでしょうか。</p> <p>「災いを転じて福となす」という諺もあります。思い切った教育投資を行い、教育の場のネット環境の充実・PC機器の整備・カリキュラムの検討など、積極的に進めていただきたいと思います。</p>			
市長の回答	担当課	学校教育課	
<p>【学校教育課】</p> <p>新型コロナウイルス感染予防のための臨時休業に伴い、瑞浪市内の学校のみならず全国の学校でICT等の活用による学びの保障が求められています。瑞浪市教育委員会においても、この度の臨時休業の長期化に際して、子供たちの学びに適したwebサイトを紹介したり、サーバーを契約して学習動画をアップしたりするなど、学習支援に努めてまいりました。現在、国が推し進めている「GIGAスクール構想」の下で、瑞浪市内の公立小中児童生徒に、本年度中にタブレット端末の「一人一台」体制を構築するとともに、これらの端末が活用できるように環境整備を進めています。感染拡大の第2波、第3波を想定して、家庭学習でもこの環境整備を活用して、子供たちの学びを保障できるよう準備を進めています。</p>			

地区名	大湫地区	番号	2
タイトル	雇用対策について		
ご意見の内容			
<p>昨年4月、中学校が統合され、少子高齢化が進み各地域の活力が失われているように見えます。若い世代が都会に流出し、地場産業の衰退に拍車をかけていることなどが挙げられると感じます。</p> <p>地域格差はありますが、先ずは雇用対策ではないかと思えます。</p> <p>前の市長さんが工業団地を誘致されましたがまだ足りてないのでは。</p> <p>雇用が確保されれば人口流出が止まり、各地域の活力が上がるのではないかと感じますが、今後の工業団地計画、雇用面などどのように思われますか。</p>			
市長の回答	担当課	商工課	
<p>瑞浪市では雇用対策として、高校生を対象とした瑞浪市合同企業説明会を毎年2月に開催しており、今年で4回目となります。これは、市内企業と地元の高校生をマッチングして、地元での就職促進、人材の流出防止に繋げるものです。この施策の実施により、瑞浪高校、中京高校では、市内企業への就職率が増加しており、成果も出ております。</p> <p>工業団地については、可能性調査を行っておりますが、採算性などの問題により、現在、本市で新たな工業団地の開発を行う計画はありませんが、学校跡地や民間所有地を活用した企業誘致を実施し、雇用の創出と人材流出防止を図っていきたくと考えております。</p>			

地区名	大湫地区	番号	3
タイトル	携帯用小型翻訳機（ポケットーク）の活用について		
ご意見の内容			
<p>☆要望事項：携帯用小型翻訳機（ポケットーク）を瑞浪市で10個位購入頂き、大湫町の要所々に備え付けて頂くこと（丸森、おもだか屋等）また、町民の希望者に無料レンタルをして頂くことを検討して頂けないでしょうか。</p> <p>☆要望理由：現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため大湫町を訪れる外国人は皆無ですが、以前は、家の前を大勢の外国人ハイカーが楽しそうに会話をしながら歩いて行きました。こんな時に、外国人と会話ができれば楽しいだろうな—とっていました。ある時「ポケットーク」という素晴らしい翻訳機があることを知りました。ほとんどの外国語の翻訳機能が付いており、しかも自分に代わって喋ってくれるという優れものとのこと。東京浅草仲見世の店主は、ポケットークで外国人と会話しながら商売していると聞きました。こんな優れものを利用しない手はないと思います。</p> <p>大湫町の良さをより多くの外国人に確実に伝え、わかってもらうためにも、また、大湫町民の、外国人と会話ができる、気持ちが伝えあえる、という楽しさを実感してもらうためにも、是非前向きにご検討頂きますようよろしくお願い致します。</p> <p>一刻も早く以前のような賑わいが戻るよう、新型コロナウイルス感染症の終息を願っております。</p>			
市長の回答	担当課	商工課	
<p>携帯用小型翻訳機（ポケットーク）については、外国人観光客が訪れた際に活用できるように丸森では、平成30年度に1台導入していただいておりますが、使用頻度が低いと聞いております。</p> <p>いただいたご提案ですが、丸森での活用状況やポケットークと同等の機能が利用できる無料翻訳アプリがあることから、市が新たにポケットークを導入することは考えておりません。無料翻訳アプリの一つに国立の研究機関が開発した「ボイストラ」がございます。丸森のポケットークと併せて地域でご活用いただければと思います。</p>			

地区名	大湫地区	番号	4
タイトル	ICTを活用した地域社会の情報伝達と教育の「ICT」化（遠隔授業）		
ご意見の内容			
<p>1. ICTを活用した地域社会の情報伝達 現代社会では通勤時に「スマホ」でニュースを読み、タブレット端末や電子書籍の発達で新聞や書籍などの紙媒体の情報伝達からデジタル情報の伝達にシフトしている。 そこで瑞浪市内で一番人口が少なく、高齢化率も高い大湫町をモデル地区として町内での紙媒体が主流の情報伝達をデジタル情報で伝達する方向にシフトしてはどうか。誰もがいつでも簡単に情報にアクセスし取得できます。（高齢者でも十分対応出来ると思います。） 例えば固定電話は解約し、一世帯に一台のタブレット端末等の環境を整備し実現することが可能になると思います。（テレビ電話もできますよ）（例えばNTTと固定電話の解約とセットで協議すれば対応してくれると思いますよ）</p> <p>2. 教育の「ICT」化（遠隔授業） 新型コロナウイルスの感染拡大が問題となっている中で、中国では生徒に登校させるのをやめ、「オンライン授業」を多くの学校で行っていることが話題となっていることを知り、日本は特に公立の学校の普及が・・・ 「オンライン授業」は遠く離れた場所に居ながら自宅や病室等からでも授業に参加し、双方向でコミュニケーションがとれる為、先生に質問したり教室にいる生徒と会話したりと、通学が難しい生徒でもまるで教室と一緒に授業を受けているかのような環境を実現できます。 小学校の低学年は特に直接、先生や同世代と触れ合うことも大事な為、週に1～2日は登校し後は「オンライン授業」を受けるとか、学年ごとにシステムを変える等トライしつつ、修正改善もしつつ実行していけば良いと思います。まずは大湫町から導入してはどうですか。 瑞浪市の現状と中長期的な方針を知りたいです。 文部科学省も教育の「ICT」化を積極的に推進しています。自治体が手を挙げれば補助金を出すと大臣が言っていました。（多分）</p>			
市長の回答	担当課	企画政策課・学校教育課	
<p>1. ICTを活用した地域社会の情報伝達【企画政策課】 国のIT新戦略における基本的な考え方では、『国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できるデジタル化社会の実現』を目指しています。この中で、国民生活の利便性の向上や、行政機関、民間事業者の事業効率化が重点項目となっています。また、データを新たな資源として活用し、子供から高齢者まで全ての国民が不安なくデジタル化の恩恵を享受できることが求められています。 瑞浪市では、令和2年3月に本市の情報化の進め方を定める『第4次瑞浪市情報化推進計画』を策定し、市民のニーズに合わせたICTの活用を推進しています。 今回のご提案にあるように、タブレット端末は画面も見やすく、操作もしやすいことから、テレビ電話や、地図検索等のサービスを利用するのに有効であると考えております。 各家庭への情報端末の配布や、通信環境の契約について、個別に対応することは困難ですが、情報化推進計画に基づき、市ホームページや広報誌、LINE等のSNSを活用して、必要な情報を、確実に届けられるよう市民への情報発信を強化していきます。</p> <p>2. 教育の「ICT」化（遠隔授業）【学校教育課】 オンライン授業の最大のよさは、臨時休業等の状況下であっても、児童生徒と教師の双方向のやりとりを通して、一人でも学習を進めることができることであると認識しております。一方で、オンライン授業を瑞浪市の全児童生徒に実現するためには、ハード・ソフト両面からの大規模な環境整備が必要となります。 教育の今日的課題に目を向けてみると、学習指導要領においては「主体的・対話的で、深い学び」の実現が求められています。瑞浪市においても仲間と協同的に学ぶ授業づくりがその基本であると認識しております。学校再開後は、感染リスクを下げ、「3密」を回避した授業を行いながら、「主体的・対話的で、深い学び」を可能にしていけるために、オンライン授業を含む教育のICT化は指導方法や教材開発の喫緊の取組課題の一つであると考えております。 そこで、瑞浪市では、感染拡大の第2波、第3波も想定しながら、まず、オンライン授業を可能にするタブレット端末「一人一台」、カメラ・マイク、ネット環境等のハード面の整備を進めているところであります。また、それらを教育活動に有効に活用できるように、教職員のICT活用研修等のソフト面の準備も並行して進めてまいります。</p>			

地区名	大湫地区	番号	5
タイトル	大湫町の将来の町づくりについて		
ご意見の内容			
<p>1. 少子高齢化対策</p> <p>2. 大湫町の経済対策</p> <p>この問題は、今まで大湫町民が何度も話し合いをし、瑞浪市側の協力のもと色々対策がなされておりますので、私を取り上げる必要がないかもしれませんが、敢えて取り上げました。</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大湫町も他市町村と同様あるいはそれ以上に少子高齢化が進んでいます。 ・空き家対策等も積極的に行われていますが、これも現状維持が精一杯だと思われれます。 ・高齢者・子供・学生等は交通手段で大変不便を感じておられると思います。(スクールバス・コミュニティバス等の整備で少しは良いと思いますが) ・日本も観光立国を目指しております。大湫町には幸いにも「宿場町」としての観光資源があります。 <p>対策</p> <p>1. 上記1の少子高齢化対策について</p> <p>大湫町に市営住宅等の建設をする。市営住宅等には次のような建物が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市営住宅(高校生以下の子がいる家族は家賃を安く、条件が違ってても住みたい家族は通常の家賃。) ②学生寮(高校、短大、大学の部活・サークル活動の合宿等も可能。家賃及び使用料は安く。) <p>2. 上記2の経済対策について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①宿場町としての宿屋(ハタゴ)の建設(昔風の宿屋にした方が大湫宿らしさが出るように思う。) ②「大湫宿道の駅」の建設 <ul style="list-style-type: none"> ・建物の建設により町民の就職先・特産品の販売による提供者の収入金額の確保。 ・丸森(現在は物の販売が禁じられている)とタイアップすればより多くの効果が出ると思う。 ・町民も高齢化で、食事が大変な人も出てくると思います。このような人の為の食事の提供も行う。 <p>問題点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災条例により新規の建物建築許可が下りるか。 公民館が避難所になっているので、国・県に働きかけて建築が許可されるような防災工事が出来ないか。 2. 市営住宅等・大湫宿道の駅の建築には多額な初期投資及びランニングコストがかかる。 大湫町には今まで多くの投資をしていただいておりますが、これらの投資の手助けが可能かどうか。 瑞浪市における「大湫町の宿場町としての観光資源」の存在を考えると、将来性があり、投資する価値があるように思われます。 3. 地域で従業員の確保ができるか。 4. 「大湫宿道の駅」を開業したとして、他の道の駅にない特産品の開発ができるか。 5. 既存店との共存を考える必要があります。 <p>私が思いついた問題点をいくつか列挙しました中で、3・4・5については地元で考えることですが、1・2の問題点が解決しなければ全てダメになります。いかがでしょうか。</p>			

市長の回答	担当課	都市計画課・商工課
<p>【都市計画課】</p> <p>1. 少子高齢化対策として、大湫町に市営住宅等を建設する提案について (回答) 瑞浪市の市営住宅は、住宅マスタープランや市営住宅長寿命化計画に基づき、管理運営を行っております。住宅マスタープランでは、安全性が確保できない市営住宅の計画的な用途廃止及び取壊しを行うこととしています。大湫地区では、賃貸住宅の需要も少ないと考えられるため、大湫地区に市営住宅を建設する計画はありませんので、ご理解ください。</p> <p>2. 防災条例により新規の建物建築許可が下りるかどうかについて (回答) 建築制限が適用される法令には、土砂災害防止法による土砂災害特別警戒区域などがあります。この法律は、指定された区域内での建築行為に対して、土砂災害による建築物の損壊や人命への影響を抑制するため、厳しい建築制限が適用されます。当区域内においては、国の基準に適合した構造や擁壁の築造等を行えば、建物建築が可能となりますが、安全性や費用面から建築敷地も含めた計画検討をしていただければと考えます。</p> <p>【商工課】</p> <p>1. 大湫町の経済対策について 本市では、貴重な歴史的価値のある古民家の有効活用と、まちなみ景観の維持を図って地域の活性化を図るため、歴史的価値のある古民家の活用方法の提案と、活用事業者を募集する事業を行っております。事業実施に当たっては、本市の補助制度も活用することができます。 現在、改装工事を行っている旧森川善章家住宅（新森）は、本事業によるものであり、来年の夏頃には、活用事業者が古民家カフェをオープンさせる予定です。 ご提案のとおり、大湫宿に宿泊施設があれば更なる観光誘客の促進につながると考えられますので、制度を活用していただけるよう周知を行ってまいります。 また、平成29年に住宅宿泊業法が整備され、住宅の空き部屋を活用して、民泊事業を実施することが可能となりました。地域として民泊事業に取り組みたい場合、説明会の開催も行いますので、商工課までご相談ください。 また、丸森では大湫宿の活性化に資する場合は、自主事業として土産物等の物販も可能となっており、現在、観光資源である新明神社の大杉を用いたキーホルダーやクリアファイルなどの販売を行っていただいておりますのでよろしくお願いします。</p>		

地区名	大湫地区	番号	6
タイトル	東濃厚生病院と土岐市立総合病院の統合について		
ご意見の内容			
<p>1. 両病院統合の時期と場所についてお聞かせいただきたい。</p> <p>2. 東濃厚生病院の今後の活用について、どのようなお聞かせいただきたい。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>1.両病院統合の時期は、今後検討される中で決定されます。よって、現段階では未定です。場所につきましては、両病院の中間地点となります。具体的な建設場所につきましては、今後土地の調査を行い決定されます。</p> <p>2.東濃厚生病院の今後の活用につきましては、厚生連が主体となって一次医療の診療機能を残していただくよう、また、リハビリ、福祉関係施設などの活用方法を示すよう、市として要望しています。</p>			

地区名	大湫地区	番号	7
タイトル	少子高齢化について		
ご意見の内容			
<p>瑞浪市日吉町では、100年も続いた 夏の巻き藁船 提灯祭りが後継者不足で中止と聞きました。大湫町神田地区も数年後にはどうなるのか。</p>			
市長の回答	担当課	企画政策課	
<p>本市では、第6次総合計画でいち早く人口問題を課題と捉え、まちづくりの重点方針に位置付けています。その後、地方創生の取り組みとして、瑞浪市版総合戦略で人口減少対策と地域活性化対策を展開しているところです。少子高齢化の問題は、大湫町、日吉町に限らず市全体、ひいては全ての地方自治体が直面している問題です。こうした人口問題は、即効性のある画期的な改善策はありませんが、引き続き、本市の地方創生の実現に向け取り組んでまいります。</p>			

地区名	陶地区	番号	1
タイトル	新型コロナウイルスの対策について		
ご意見の内容			
<p>コロナの問題で、終息には時間がかかる気がします。対策に有効とされているマスク不足が続いていますので、市が一括に輸入等して、市民に有料でいいので配布できないでしょうか。</p>			
市長の回答	担当課	生活安全課・健康づくり課	
<p>【生活安全課】 市としましては、新型コロナウイルス感染症の収束までは、時間がかかることと認識していますが、国からの布製マスクが全世帯に届いたことや、市場においてもマスクが購入できるようになってきたことを踏まえ、現在のところ、市民への配布用に一括して購入することは、考えていません。 マスクが不足していた時期は、市としましては、購入ができず、市内の事業者や医療衛生関係の取扱い業者を経由しても確保ができない状況でした。災害時の避難者などで、マスクを持参できない方のために、少量の在庫を保管するに留まっております。今後、第2波に備えるためにも、市としては、避難所用などのマスクの備蓄数を増加することを検討しております。市民の皆様には、自助の備えとしてマスクや体温計、消毒液などの備蓄をお願いしたいと考えています。</p> <p>【健康づくり課】 マスク不足が続き、手づくりマスクなどで工夫されていた方も多くあったことと思います。5月中旬頃から少しずつ薬局等で購入が出来るようになり、現在は以前の市場に戻りつつあります。 これまでは海外からの輸入がほとんどでしたが、国内でもマスクを製造販売する企業が増えていますので、以前のようなマスク不足の状況ではないと思います。 市民の皆様におかれましては、手づくりマスクを併用しながら計画的にご家庭で備蓄をしていただきたいと考えます。 ご提案いただいた取り組みについては、過去になされた他市の事例を情報収集、研究してまいります。</p>			

地区名	陶地区	番号	2
タイトル	健康で過ごすために		
ご意見の内容			
<p>現在、猿爪区内における医院は、月曜日、水曜日、金曜日、土曜日（午前）の週4日診療を行う石田医院しかなく、医院長が高齢のため、いつ辞めてもおかしくない状況である。月に2回東濃厚生病院の検診バスが来てくれるようになったものの、急な病気に対する対応にはほど遠い状況である。また、猿爪区民の現況においては、①生活保護世帯、②それぞれが75歳以上の二人世帯及び75歳以上の独居世帯、③独居婦人世帯、④母子家庭で子供が未就労の世帯、つまり、自家用車が持てなかったり、免許返納の可能性（免許を返納して欲しい方）が26%を占めているため、いつでも総合病院への通院ができる方法を取ることとは必要不可欠である。また、瑞浪まで運行している東濃鉄道バスは、日中の運行が減り、午前中の診療時間中の東濃厚生病院着は、9時13分と11時21分の2本しか無くなってしまった。もちろん、診察前の8時13分というバスはあるものの、定期予約ではない、苦痛を抱えた病人が早くから病院で待つことはいかかなものであろうか、また、帰りのバスにおいても、10時01分、12時01分、13時51分と間隔で苦痛が継続している病人においてはいかなものであろうかと考える。また、バス停から病院までの距離も病人にとってはたいへんだと考える。そのためには、病院の玄関まで行くことができ、予約時間が1時間を超えることも多いため、診察終了について融通を効かせることが可能なコミュニティーバスを走らせていただけないものであろうか。日中のコミュニティーバスの利用状況を考えた場合、数本の路線変更は可能ではなかろうか。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課・商工課	
<p>【健康づくり課】 健康で過ごすために、一次医療機関でかかりつけ医師を持ち、必要な医療が受けられることは大切なことでありますので、医師不足は大きな問題であると認識しております。 月2回の東濃厚生病院の巡回診療は、急な病気に対する対応とはなりません、高血圧や脂質異常症などの生活習慣病の治療を受けるような一次医療が提供されていますので、有効に利用していただけると良いと考えます。</p> <p>【商工課】 近年、全国的にバスの運転手不足が課題となっており、コミュニティーバスも民間の路線バスも、限られた人員と車両数で最大限の便数を確保しながら、市内で効率的な運行を行っております。陶町と瑞浪市の中心部を結ぶ東濃鉄道バスにつきましては、深刻な運転手不足と収支状況の悪化により、令和2年4月のダイヤ改正において、乗客が特に少ない昼間の減便を断行し、合理化を図ったとのことです。陶町の皆様には路線の維持のためにご理解いただきたく存じます。 代替手段としてコミュニティーバスの運行を、というご意見につきましては、利用需要を把握し、必要性を判断した上で、対応していくべき課題と考えますが、路線が重複する東濃鉄道バスと競合し、撤退につながる可能性があるため、慎重に検討しなければいけないと考えております。現状としては、陶町内の移動はコミュニティーバス、市中心部への移動は東濃鉄道バス、と棲み分けることで路線を維持し、乗り継ぎに配慮したダイヤを設定する等の連携を図ってまいります。</p>			

地区名	陶地区	番号	3
タイトル	メールでの情報発信を		
ご意見の内容			
<p>いつ何が起こるかわからない世の中で、情報のスピードが求められている。日中、瑞浪市内で勤務していない市民においては、情報の早遅においてその対応もまた違って来るものとする。また、急な対応に対しても、限定メンバーを選定し、発信可能なメールシステムは有効ではなかろうか。</p>			
市長の回答	担当課	生活安全課	
<p>現在、市では、気象情報、地震に関する情報などの防災情報や、不審者の目撃情報などの防犯情報など緊急情報を登録制メール（防災・防犯「絆」メール）及びSNS（市公式LINE）にて、発信しております。普段、市内にいる方については、防災行政無線や防災ラジオでの聞き取りが可能ですが、それ以外の方についても、登録制メール及び市公式LINEのご登録のお願いをしています。また、これらメールやLINEの配信内容については、市ホームページにおいて確認することができますので、ご活用いただきたいと考えています。</p>			

地区名	陶地区	番号	4
タイトル	毎年の桜祭りをみんなで楽しむために		
ご意見の内容			
<p>桜祭りの時期が来ると、桜を楽しむ人がいる一方で、「参加している人たちに対する不満」を持つ人々が存在するようになってきている。それは、桜ヶ丘公園近くに住んでいる人々である。</p> <p>なぜかという、桜ヶ丘公園側面の桜木は大きくなりすぎるとともに、地盤もしっかりとしておらず、倒れた場合に民家に被害を与える可能性が高いためである。過去に大きな桜木が根元から倒れたことがあり、現在の桜木の状態を考えると不安を感じる。しかし、桜木の伐採については、高額な費用を必要とし、猿爪区の予算では難しいため瑞浪市に力を借りたいものの、猿爪区管理地のため瑞浪市からの協力が得られない。ぜひ瑞浪市の経費で伐採をし、地域住民みんなで楽しむ桜祭りを実現させたい。</p>			
市長の回答	担当課	子育て支援課・農林課	
<p>【子育て支援課】 本市では、児童遊園地の遊具につきましては点検・管理を行っておりますが、児童遊園地内の樹木の管理や草刈り等の公園環境の維持につきましては、児童遊園地を利用されている地元の方々を実施していただいています。</p> <p>桜ヶ丘公園につきましても児童遊園地であることから、すべり台とブランコにつきましては点検・管理をしておりますが、公園環境の維持につきましては、地元での対応をお願いいたします。</p> <p>【農林課】 岐阜県の清流の国ぎふ森林・環境税を財源とした「清流の国ぎふ地域活動支援事業」の支援制度があります。この補助制度は、各種団体が自ら企画、立案、実行する創意工夫ある森づくりや川づくり活動を支援するものです。</p> <p>今回ご意見をいただきました桜ヶ丘公園のサクラの伐採に関して、本補助制度が利用できるかどうかは県との協議となりますので、農林課までご相談ください。</p>			

地区名	陶地区	番号	5
タイトル	「3つの世界一」を国内外へ発信		
ご意見の内容			
<p>先日、自宅で新聞を読んでいたら、瑞浪市には「3つの世界一」があることが紹介されていた。それは、市民なら誰もが知っている。</p> <p>★世界一の狛犬（瑞浪市陶町大川） ★世界一の茶壺（瑞浪市陶町大川） ★世界一の大皿（瑞浪市稲津町）である。</p> <p>しかし、瑞浪市は情報発信力が不足しているため、県内はもとより国内では十分に知られていないと思う。従って、あらゆる情報発信ソースを活用し、本市の知名度を上げ、多くの国内外の観光客を誘致したい。同時に、観光客に対して「道の駅」のような施設を整備すれば、地域の農業や地場産業である美濃焼等の特産物の販路拡大や雇用確保も期待できると考える。ひいては、そこに生きる市民一人ひとりが「自信と誇りを持てる瑞浪市」となるのではないかと。</p> <p>※市広報誌の発行回数の見直し （情報内容の精選、税金の節約、労力の削減など） ※元陶小学校跡地の有効活用（例：総合防災施設の設置）</p>			
市長の回答	担当課	商工課・企画政策課	
<p>【商工課】 本市は、陶町のこま犬、茶つぼ、陶与左衛門窯は「陶器のまち」を象徴する貴重な観光資源と考えており、地元から土地をお借りして駐車場と公衆トイレを整備しておりますが、観光拠点として陶町に道の駅を整備する計画はございません。</p> <p>瑞浪市では「3つの世界一」について、観光パンフレット「みずnavi」への掲載やチラシを作成し、市内外に広く発信しております。また、英語、フランス語、スペイン語、中国語などの多言語に翻訳し、中部国際空港へも配架して情報発信を行っております。</p> <p>さらに、旅行商材としてツアー化できるよう、与左衛門窯での陶芸体験とともに紹介をしているところです。今後も創意工夫し、情報発信してまいります。</p> <p>なお、旧陶小学校跡地の活用については、平成27年に地元（陶中学校跡地利用検討委員会）から、陶町の活性化となる雇用の確保につながるような跡地利用の要望を受けています。これを受けて、市は、旧陶小学校跡地については、地域課題の解決や活性化を図ることを前提に、民間事業者へ売却し、活用を進めることとしています。</p> <p>今年度中に活用方法の提案を事業者から受け、公募を開始したいと考えております。</p>			
<p>【企画政策課】 広報みずなみは、市政に関する様々な情報等を分かりやすく、また、できるだけタイムリーにお伝えすることによって、市民の皆さんと行政が情報の共有を図り、協働のまちづくりを推進するための効果的な情報発信の手段であると考えています。</p> <p>一方で、広報配布に関しては、区長さんをはじめ自治会の皆さんにご協力いただき各世帯へ配布しており、関係者の皆さんの配布業務にかかる負担軽減に配慮する（取り組む）ことも重要です。</p> <p>今年度、広報発行業務等における情報発信の在り方について検討を行いました。</p> <p>広報紙以外の媒体（HPやSNS等）を利用した行政情報の発信など、様々な情報発信手段を検証する中で、自治会の配布業務にかかる負担の軽減、広報発行にかかる費用等も考慮した結果、広報紙の発行回数について令和3年度から月1回発行へと変更することとしました。</p>			

地区名	陶地区	番号	6
タイトル	世界一のこま犬の活用		
ご意見の内容			
<p>外出自粛の中でも、こま犬には他県ナンバーの自家用車、二輪車、自転車が多く訪れています。現在は（コロナ過では）、好ましいことではありませんが、平時において、この集客が地域に活用されています。見学が終わるとすぐに帰ります。常時開店している施設がある駐車場（登り窯との間）があれば雇用も生まれます。</p>			
市長の回答	担当課	商工課	
<p>大川地区に対し、瑞浪市が新たな集客施設を作る計画はございませんが、本市では、新規で創業を希望する方に対し、最大500万円を交付する新たな事業チャレンジ支援補助制度を実施しておりますので、当該地域に商機を見出した市内外の方が、この補助制度を活用し、新たに事業活動を創業していただくことを期待しております。</p>			

地区名	陶地区	番号	7
タイトル	全世帯にネット環境を！～地域も人も元気に～		
ご意見の内容			
<p>お年寄りの多い町こそ、ネットが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもとお年寄りの双方向の良さを発揮したふれあいが可能になる。 • 長期的には市の予算削減となり、市民と行政との距離が縮まる。 • 地域の課題を地域の中で解決できる可能性がアップする。 • 子どもの学力アップ。（経済格差による学力格差解消にも役立つ） • お年寄りの生きがいアップ。（自動車免許を返納しても・・・） 			
市長の回答	担当課	企画政策課	
<p>本市では、情報化を推進するため令和2年3月に『第4次瑞浪市情報推進計画』を策定し、情報通信技術を活用して、より良い市民サービスの提供と、本市役所の業務効率化を推進してきました。</p> <p>陶地区におけるネット環境は、4G（第4世代移動通信）による携帯電話網、及び光ケーブル等の固定回線により、多くの方が高速通信を利用できるようになっています。</p> <p>市では、ホームページや、LINE等の情報ツールを活用し、積極的な情報発信を行っています。特に、絆メールによる防災・防犯情報や、ゴミ収集アプリなど、市民が必要とする情報を確実に届けられるよう様々な媒体を活用しています。教育分野では、コロナ禍においても、生徒一人一人が、自宅で授業を受けられるようタブレット端末等を利用した『オンライン授業』への環境整備が進んでいます。また、高齢者の方については、パソコンやスマートフォンなどで、自宅に居ながら市の情報を得ることができるようICTの活用を推進してまいります。</p> <p>今後も、ネットによる高速通信環境とICT技術を有効に活用することで、行政の効率化や、地域課題の解決等に柔軟に対応していきたいと考えております。</p>			

地区名	陶地区	番号	8
タイトル	すべての市民がいつでも相談できる環境を		
ご意見の内容			
<p>一般的に、「月曜日から金曜日」の「8時30分から17時15分まで」の勤務をしている人が多い中、相談窓口である市役所及びコミュニティセンターの相談時間はいつなのだろうか。お昼休みに電話で確認するも、なかなか電話がつながらなかつたり、専門的知識のない対応者に当たった場合は昼食が取れない場合も有り得る。土日に勤務者を配置し、相談対応に当たる必要はないだろうか。また、今回の特別定額給付金の問い合わせは「9時から17時（土・日・祝日を除く）」となっている。期間限定の相談であっても同じような対応になっている。本当に説明を必要とする人にとって、この対応でよいのだろうか。</p>			
市長の回答	担当課	秘書課・企画政策課	
<p>【秘書課】 市役所及びコミュニティセンターの業務時間は、平日8:30～17:15となっており、多くの民間企業等にお勤めの方の勤務時間と重なっています。そのため、お昼休みにお問い合わせをいただくことも多く、職員が交代でお昼休みを取るなどして対応させていただいております。また、市民のご利用が多い、市民課、税務課、上下水道課では、平日日中にお手続きが困難な方のため、火曜日と木曜日に19:00まで延長窓口を開設して対応させていただいております。お時間が限られる方は、事前にご相談日時をご指定いただくか、市ホームページから各課にメールでお問い合わせいただくことも可能ですので、ご検討いただけますと幸いです。</p> <p>また、相談窓口ではありませんが、住民票は予約をさせていただくことで土日にも日直で受け取ることが可能となっており、住民票及び戸籍は郵送での交付も可能となっております。平日の日中にお手続きが困難な方は、ご利用いただければと思います。</p> <p>今後も延長窓口のご利用状況や、ご要望件数等によって市民ニーズの把握に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。</p>			
<p>【企画政策課】 特別定額給付金につきましては、国の政策を市区町村が主体となって実施する事業です。</p> <p>本市では、4月末から、国の早期支給の意向に沿い、市民の皆様に一刻も早く支給できるよう、限られた人員の中で、平日、土日を問わずその事務を進めてきました。</p> <p>ご指摘のとおり、本市では、土日の電話相談を行いませんでした。これは、国が平日、休日問わず、特別定額給付金に関する皆様からの問い合わせに対応するためのコールセンターを設置したこと、また、土日は、申請書の発送、返送された申請書の審査、確認、口座入力などを集中的に行い、皆様への給付金の早期支給を最優先にしたことが理由になります。ただ、国のコールセンター設置については、お配りしましたチラシだけでは周知不足でご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。</p> <p>なお、4月末から6月末までの電話相談は、1,000件程度ありましたが、土日に電話対応をしていないことでの苦情等はありませんでした。しかしながら、必要な情報の十分な周知や、いつでも相談できる体制づくりは重要ですので、今後の課題とさせていただきたいと思っております。</p>			

地区名	陶地区	番号	9
タイトル	合併浄化槽補助金の継続		
ご意見の内容			
<p>昨年もリフォーム補助金と合併浄化槽補助金について要望させて頂きましたが、引継ぎ要望させて頂きません。</p> <p>市長さんからの回答で、合併浄化槽補助金の期間は5年間と決めており、既に5年経過して3年間の延長をしています、延長期間は今年度で終了すると回答を頂きました。</p> <p>陶町の水洗化率は約50%とお聞きしましたが、まだ半分が水洗化出来ていない状況であり、引き続き現在の内容で補助金をお願い致します。</p> <p>陶町は高齢化率43%と市内でも1番高齢化率が高く、高齢化に伴いトイレを広く清潔にしたい方が多いと思いますが、水洗化が進まない原因は便器だけの交換で終わらずトイレ全体のリフォームになり設置者の負担が大きいためです。陶町がもっと住み安く若者が定住してくれる街にする為にも、合併浄化槽補助金の現状継続をお願い致します。</p> <p>新型コロナウイルス対策として、大都市への人口集中は感染リスク高めるとして地方分散の必要性が協調され、テレワークにより働く場所の環境が大きく変わろうとしています。</p> <p>今後は、何処にいても働ける新しいタイプの時代がやって来ると思います、陶町に定住して働いて頂くには、自然豊かで、清潔で快適な環境が必要です、その為にも全域水洗化の事業を進めて頂きますようお願いいたします。</p>			
市長の回答	担当課	上下水道課	
<p>現在、公共下水道に接続が困難な地域において、合併処理浄化槽設置に係る費用の補助をしておりません。国、県の補助に、瑞浪市独自の補助を上乗せして、5人槽で777千円、7人槽では860千円、10人槽では、1,008千円と、県内でもトップクラスの補助をいたしております。その補助金も、3年の延長期間を設け、平成25年度から8年目となりますが、本年度（令和2年度）が最終年度となりました。これまで7年間の実績は、442基、約1,400名の水洗化に寄与することが出来ました。</p> <p>来年度からどうなるのか、ご心配のため提案をいただいたとお察しいたします。来年度からも今年度までと同額の補助をとの提案ですが、現時点では検討段階ですので、金額のお約束までは出来ませんが、合併処理浄化槽を設置する重要性は、環境の面、定住の面等から見ましても、十分に承知いたしております。現在の状況やこれからの設置見込み等から、今後、補助金額や補助の対象等の具体的な検討を進め、内容が決まり次第、広報やホームページで、お知らせいたします。</p> <p>◎高度処理型合併処理浄化槽の補助金（ ）は県内の補助金額の順位</p> <p>5人槽 標準工事費1,100千円 444千円（国県市）+333千円（市上乗せ補助）+333千円（自己負担額） （市では1番、町含むと4番）</p> <p>7人槽 標準工事費1,215千円 486千円（国県市）+364千円（市上乗せ補助）+365千円（自己負担額） （市では2番、町含むと5番）</p> <p>10人槽 標準工事費1,440千円 576千円（国県市）+432千円（市上乗せ補助）+432千円（自己負担額） （市では3番、町含むと9番）</p>			

地区名	日吉地区	番号	1
タイトル	市長さんへのお願い 医療問題		
ご意見の内容			
東濃厚生病院を総合病院として存続していただけるよう、関係機関に働きかけてください。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>全国的に医師不足が問題となっている中、この地域の医療機関でも医師の確保が非常に困難となっており、特に2次病院（東濃厚生病院・土岐市立総合病院）における救急医療の提供は難しい状況となっています。こうしたことから、今後も安定した医療の提供体制を確保するために、2つの病院の統合により医療人材を集約し、より充実した医療サービスを提供できる病院を設置することが望ましいという考えから、東濃厚生病院・土岐市立総合病院の1病院化の方向性が確認されました。</p> <p>1病院化により、病院の規模が大きくなり、高度な医療も提供が可能となります。将来を見据えた医療体制の確保として、ご理解をいただきたいと思います。</p>			

地区名	日吉地区	番号	2
タイトル	日吉南部地区集落排水事業から公共下水道の接続に伴う都市計画区域としての今後の都市整備計画について		
ご意見の内容			
<p>日吉地区は、少子高齢化が進み、市内においても当地域は高齢化率が増加傾向にある。特に若者（高校、大学を卒業した者）が地域を離れ、後継者（後継ぎ）が少なくなっている。</p> <p>これは、雇用の場ということもあるが、現代社会では通勤圏の範囲も広がっている現状を考えてみると、「第6次瑞浪市総合計画後期基本計画」の基本方針3「自然と調和した快適で暮らしやすいまち」に掲げる都市基盤整備や生活環境整備などにも大きな影響があるのではないかと。</p> <p>そこで、タイトルに示す日吉南部地域では、公共下水道接続による都市計画税が賦課されることとなるが、当該地域の今後の具体的な整備計画は如何に。</p> <p>提案① 本郷地内で、今後、市道前田・木ノ下線が拡幅、整備されると聞くと、将来の宅地化を考慮し、上下水道の敷設整備を行ってはどうか。</p> <p>提案② 当該地域は、瑞浪市街地へのアクセスも良く、また、駅北までは5～6分程度とJRを利用する通勤者の利便性も良い。したがって、人口減少の解消と少子高齢化の歯止めを行うため、宅地化を進めてはどうか。</p>			
市長の回答	担当課	上下水道課・企画政策課	
<p>・提案①について【上下水道課】 前田・木ノ下線の上下水道整備については、元々この道路は農業基盤整備事業により農道として整備したものです。この沿線は農業振興地域であり、大区画化した優良農地が広がっています。今後も農用地として維持すべき区域ですので、上下水道の整備は考えておりません。</p> <p>・提案②について【企画政策課】 「この地域を宅地化してはどうか。」というご提案ですが、確かにご指摘のとおり、日吉町の中でも本郷区やその周辺は、駅まで10分弱という恵まれた立地であると思っています。しかしながら、提案①でお答えしたように、ご指摘の地域は、農業振興地域ということで優良農地として整備をしたところですので、当面は農地としてご活用いただくべきであろうと思います。</p> <p>※都市計画税とは…参考回答 都市計画税は目的税のため、都市計画事業又は区画整理事業に要する経費に充てます。平成30年度決算額では、都市計画税は約2億8,500万円です。用途としては、大部分を都市計画事業の一つである下水道事業の公債費、つまり、下水道整備のための借入金の返済に充てています。日吉南部の農集統合事業にも下水道事業債を活用しているところです。</p>			

地区名	日吉地区	番号	3
タイトル	人口減少と一人住まいの高齢者の増加		
ご意見の内容			
<ul style="list-style-type: none"> • 人口減少防止策として、割安な集合住宅を建設。 • 瑞浪駅と日吉を結ぶトンネルを建設。 • 首都機能移転をもう一度推進する。 • 高齢者の一人住まい先に対して、タブレット端末の配布。オンラインで見回り隊やオンライン診療を行えるようにする。 • 公共サービスを費用対効果で考えることも大事だが、地域の安定した生活水準を保てるようにする。 • 水源地近辺の山林の保全を図る事が下流域住民の安心安全につながる。 			

市長の回答	担当課	健康づくり課・農林課・ 企画政策課・高齢福祉課
<p>・人口減少防止策として、割安な集合住宅を建設。【企画政策課】 市では、これまでも企業誘致等により雇用を拡大し、地域経済の活性化を図ってまいりました。市内全体でみれば民間の賃貸集合住宅は増加しております。アパート等の集合住宅に関しましては、市としましては、民間活力を活用した人口減少対策や地域活性化の取り組みを推進したいと考えております。</p> <p>・人口減少防止策として、割安な集合住宅を建設。【都市計画課】 瑞浪市の市営住宅は、住宅マスタープランや市営住宅長寿命化計画に基づき、管理運営を行っております。 住宅マスタープランでは、安全性が確保できない市営住宅の計画的な用途廃止及び取壊しを行うとしており、計画期間中における不足戸数については、家賃補助や民間賃貸住宅住宅の借り上げ、集約立替などを検討していくこととしています。 日吉地区では、賃貸住宅の需要が少ないと考えられるため、新たな市営住宅を建設する計画はありません。</p> <p>・瑞浪駅と日吉を結ぶトンネルを建設。【企画政策課・土木課】 日吉町と瑞浪駅を直接結ぶことで、日吉町の利便性は向上すると思われませんが、費用対効果が見込めないため、現実的ではないように思われます。</p> <p>・首都機能移転をもう一度推進する。【企画政策課】 首都機能移転は、1999年（平成11年）に、国が設置した「国会等移転審議会」において、3地域が候補地として選ばれ、この東濃地域も候補地として選ばれましたが、その後、国会で移転に関する審議が凍結され、進んでいません。しかしながら、ここに来て、コロナの影響や東京一極集中の是正などが叫ばれる中で、首都機能移転に関する議論が再燃しているという話も聞いています。国会での議論や国民的な話題に上がるようになれば、再度チャンスがあると思っています。</p> <p>・高齢者の一人住まいに対して、タブレット端末の配布。オンラインで見回り隊やオンライン診療を行えるようにする。【高齢福祉課、健康づくり課】 市内の一人暮らし高齢者の割合は増加しており、10年前は1,492世帯であったものが、2,427世帯に増加しています。一人暮らし高齢者に対する見守りは、主に身近な存在となる地域の民生児童委員や福祉委員に担っていただいています。また、市が行う配食サービスにおいても、安否確認を兼ねたお弁当の配達を週に1回行っております。また民間企業においても一人暮らしの高齢者を見守るサービスもありますので、様々なサービスを活用しながら、安心・安全な生活を送っていただきたいと考えています。 オンライン診療につきましては、現状においては、通院負担の軽減や病院内での感染リスクを減らすなどのメリットはありますが、画面上では視診や触診等が十分に出来ず、病状悪化や緊急時の対応が困難であることなどの課題も指摘されています。県では、昨年度より県医師会と連携し、オンライン診療の有効性や課題の把握、オンライン診療に関する正しい知識の普及などに取り組んでいます。市としましては、県と連携し情報収集に努め、地域医療を担っていただいている土岐医師会とともに協議、研究を進めてまいります。 現状では、高齢者へのタブレットの配布は考えておりませんが、ICT技術は急速に進んでおり、高齢者の皆さんのニーズが高まれば、そのような対応をしなければならない時代が来ると思っています。</p> <p>・公共サービスを費用対効果で考えることも大事だが、地域の安定した生活水準を保てるようにする。【企画政策課】 本市では、これまでも豊かな暮らしを営むことができる魅力あるまちにするため、福祉の充実、都市基盤の整備、産業の振興、教育文化の充実などを図ってまいりました。現在、第6次瑞浪市総合計画において様々なまちづくり施策に取り組んでおります。その進み具合を数値で図るための指標を設けており、毎年市民アンケートによりまちづくりの指標の現状値の把握に努めております。令和元年度の市民アンケートでは、瑞浪市は住みよいところだと感じる市民の割合は、71.6%、今後も瑞浪市に住み続けたいと考える市民の割合は、82.1%、瑞浪市の現状に満足している市民の割合は、84.4%となっています。これらまちづくりの指標の現状値を見ると、現状の暮らしに対し、概ね満足していることがうかがえます。引き続き、市民ニーズの把握に努めるとともに、地域の実情を踏まえバランスを考慮した施策を展開し、第6次瑞浪市総合計画の将来都市像「幸せ実感都市みずなみ」の実現を目指してまいります。</p> <p>・水源地近辺の山林の保全を図る事が下流域住民の安心安全につながる。【農林課】 昨年度から、国の森林環境税の制度がはじまり、これを活用して、手の行き届いていない私有人工林を調査し、間伐する事業をスタートさせております。本年度は日吉町の一部で意向調査を行い、来年度以降順次間伐を行う予定です。これにより、適切に管理されていない森林を間伐し、山林の保全を図りたいと考えております。</p>		

地区名	明世地区	番号	1
タイトル	統合新病院について		
ご意見の内容			
<p>これまでの経緯と今後の見通しについて説明してほしい。 東濃厚生病院と土岐市民病院が統合されて新病院が土岐市に建設されることが決まったと聞きました。これまで市長は「両病院の中間地点」と言っておられました。なぜ土岐市に決まったのでしょうか？瑞浪市内で候補地はなかったのでしょうか？ また、今後具体的に建設計画が進められることとなりますが、その年次計画、建設費、病院維持費（市の負担金）の両市負担割合、開院後の市内からの通院手段（バスなど）等について、現在お話しいただける点をお聞かせください。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>瑞浪市・土岐市・JA岐阜厚生連の3者で、「東濃中部の医療提供体制検討会」を立ち上げ、協議を重ねてきました。この検討会において、1病院化が最も適当で、その建設位置は、両病院の中間地点を基本とし、経営手法は、両市による公設民営とすることが確認されております。</p> <p>今後につきましては、両市で病院を建設・運営するための公の機関として『一部事務組合』を設置するための準備機関を立ち上げます。令和2年度中に建設適地の選定とその周辺地域の検討に入ります。新しく設置される一部事務組合にて建設候補地を決定後、新病院の開設には5年程度の期間が必要とされています。建設費、病院維持費（市の負担金）の両市負担割合は、一部事務組合設置までに協議してまいります。開設後の市内からの通院手段につきましては検討してまいります。</p> <p>具体的な建設候補地が決定しましたら、市民の皆様に対し、説明する機会を設ける予定です。</p>			

地区名	明世地区	番号	2
タイトル	市広報 月2回から1回に		
ご意見の内容			
<p>①区又組の役員さんの負担軽減 区民の多くの方が重複して役を持ってみえます。そんな中、1つでも減らしてほしいと思っている方が多くおられます。</p> <p>②市の財政負担軽減 わずかかもしれませんが、経費削減になると思います。</p> <p>素朴な質問ですみませんがよろしくお願いします。</p>			
市長の回答	担当課	企画政策課	
<p>広報みずなみは、市政に関する様々な情報等を分かりやすく、また、できるだけタイムリーにお伝えすることによって、市民の皆さんと行政が情報の共有を図り、協働のまちづくりを推進するための効果的な情報発信の手段であると考えています。</p> <p>一方で、広報配布に関しては、区長さんをはじめ自治会の皆さんにご協力いただき各世帯へ配布しており、関係者の皆さんの配布業務にかかる負担軽減に配慮する（取り組む）ことも重要です。</p> <p>今年度、広報発行業務等における情報発信の在り方について検討を行いました。</p> <p>広報紙以外の媒体（HPやSNS等）を利用した行政情報の発信など、様々な情報発信手段を検証する中で、自治会の配布業務にかかる負担の軽減、広報発行にかかる費用等も考慮した結果、広報紙の発行回数について令和3年度から月1回発行へと変更することとしました。</p>			

地区名	明世地区	番号	3
タイトル	中心市街地活性化に向けた東濃厚生病院の現位置存続について		
ご意見の内容			
<p>東濃厚生病院と土岐市立総合病院の新設統合が議論されているようであるが、中心市街地の衰退防止及び財政的な観点から現位置存続を求める。</p> <p>東濃厚生病院は、通院と入院患者合わせて一日に約900人、付き添いや見舞の数を勘案すると1,000人を超えるような市民が日々集まっている計算になる。</p> <p>中心市街地といえる必須アイテムは、交通起点、人口集積、商業、行政機能と言われているが、瑞浪駅前が中心であったのは昭和40年代までで、以降はモータリゼーションの進展によるユニー他の商業の郊外化やバス利用者の減少で、市税を重点的に投入して整備した瑞浪駅前もスクラップ化しようとしている。</p> <p>東濃厚生病院の移転は、これに追い打ちをかけ、中心部をゴーストタウン化する最後の矢になる危険性をはらんでいる。</p> <p>一方、多治見市では分庁舎を駅北に建設し、新たな中心部市街地につくる動きがある中、瑞浪市の令和2年度予算では、「まちの顔」を整備すべく、再開発によるまちづくりの推進に向けた予算措置をとったのであるが、基幹病院の郊外移転という正反対の施策は一貫性を欠くものと言わざるを得ない。</p> <p>また、病院の建設・整備には少なくとも数十億円の費用を、さらに毎年数億円の維持管理費を要すると考えられ、折半するとしても改修費用に頭を抱えた土岐市の二の舞になることは必定である。</p> <p>幸い、東濃厚生病院は平成15年にJA厚生連が施設を整備したもので、市の負担は年間6,000万円程度であり、移転統合の費用に比べはるかに軽い負担で済んでいる。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>東濃厚生病院と土岐総合病院の1病院化は、人口減少や高齢化が急速に進むと予想される中で医師不足が深刻な問題となっており、東濃厚生病院において、特定の診療科で医師の確保ができず、診療できない事態や、輪番で対応している救急医療についても今後安定した体制を敷くことが困難な状況となっています。遠くない将来、病院はあっても医師はいないという状況も懸念されることから、この東濃中部地区の将来にわたる安定した医療の確保に向けて決定されました。</p> <p>東濃厚生病院は、80年もの長い歴史の中で、市民の健康を守ってきた病院であり、また、中心市街地に位置するため、その存在による影響はあると考えます。市としても出来ることであれば移転を避けたいという思いがありましたが、両市が互いに我を通すことなく、大局的な視点から医療圏域を捉え、医療提供体制を構築する必要があると考え、1病院化後の建設場所は、両病院の間地点と決定しました。</p> <p>新病院建設による費用、建設後の市の費用負担に関しましては、今後協議をしてまいります。東濃厚生病院の今後の活用につきましては、医療の観点が中心にはなりますが、地域活性化等も含め、市民の皆様へのあらゆる影響を加味して、市としてJA岐阜厚生連へ要望していきます。</p>			

地区名	明世地区	番号	4
タイトル	少子高齢化・防災対策に対応する防犯カメラ、ドローンの導入について		
ご意見の内容			
<p>当区は、年々少子高齢化が進み、独居老人世帯の増加、子供の登下校の安全確保、認知症の徘徊対策、昼間の防災対応等の課題を抱えております。</p> <p>そこで、これらの課題の一助となる防犯カメラを設置し、犯罪抑止効果を狙い「防犯カメラ設置地区」という標識を合わせて設置することを提案します。</p> <p>さらに、機動性をもったドローンを消防本部に配備し、防災無線塔を電波中継に活用し、有事の際速やかに現況把握して有効な対策を講じられるよう提案します。</p>			
市長の回答	担当課	生活安全課・消防総務課	
<p>【消防本部】 消防本部では、ドローン1台を導入しております。</p> <p>使用状況としては、各種災害時における上空からの全体調査を行い、迅速に実態の把握を行う、火災では、逃げ遅れの調査、延焼状況や飛び火確認。自然災害では、災害状況や地上からでは確認が出来ない場所の調査。行方不明者捜索活動では、人員が投入出来ない場所の捜索活動を実施しています。</p> <p>【生活安全課】 (前半部分については、H30年度に同様の提案あり)</p> <p>防犯カメラについては、犯罪抑止の面から、有効な手段であると認識しています。しかしながら、カメラを長期間にわたり維持管理していく必要があることから経費の問題に加え、肖像権やプライバシーなどの問題もあります。</p> <p>市としましては、防犯カメラの設置を推進していくのではなく、まずは、現在実施している青色防犯パトロールや高齢者等の見守り事業（民間の事業者と市が見守り活動に関する協定を結んでいます（令和2年6月1日現在35事業所と締結））など、地域における各種の防犯対策の充実を図り、地域ぐるみの防犯活動を積極的に推進していきたいと考えています。</p> <p>参考事例としましては、土岐市泉町久尻では、地区内に防犯カメラを設置し、「防犯カメラ設置地区」と看板を掲げており、運用については当該自治会にて行っておられます。その場合においても、プライバシーなどの問題について、地区住民の合意は必要ではないかと思えます。</p>			

地区名	明世地区	番号	5
タイトル	瑞浪インターから化石公園に向かう案内看板のリニューアル		
ご意見の内容			
既存の案内看板が色あせてしまい、読みにくくなっているので、これを塗りなおしてイメージアップに なげたい。			
市長の回答		担当課	都市計画課
古くなった案内看板は、順次更新していく予定です。			

地区名	土岐地区	番号	1
タイトル	東濃厚生病院と土岐市立総合病院の統合について		
ご意見の内容			
<p>1 市の東部に位置する住民の病院利用が不便になるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院までの距離が遠くなり、高齢者などの通院が不便になる恐れがある。 ・瑞浪市と土岐市の住民が利用するため患者が増加し、待ち時間が長くなるなど、病院の混雑が激しくなることが心配である。 <p>2 今後、新型コロナウイルスの感染拡大の可能性があると认为、病院が統合することにより診察が受けにくくなることや病床数が少なくなるなどの心配があるが大丈夫なのか。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>1 医療機関には、一次、二次、三次医療機関があり、一次医療は通常の外来診療、二次医療は入院治療を必要とする重症患者の受け入れや専門性のある外来、三次医療は二次では対応できない重篤な患者を受け入れる高度医療や先端医療を提供する病院です。一次、二次、三次医療機関が連携し、適切な医療体制が確保されるよう県が取り組んでいるところですが、それぞれの医療が機能するためには、正しく医療にかかることが大切になります。</p> <p>そこで、市民の皆様におかれましては、まずは、身近な地域の一次医療機関でかかりつけ医を持っていただくことが大切です。二次医療が必要な方につきましては、新病院を利用していただくこととなり、現在の東濃厚生病院より、通院距離が長くなる方も増えるかと思われませんが、将来を見据えた医療体制の確保を目的とした1病院化となりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。</p> <p>新病院において、待ち時間や混雑が増えるという心配があるとのことですが、瑞浪市と土岐市の人口に見合った病院の規模になりますので、その心配はないかと考えています。</p> <p>2 コロナ禍における医療体制のあり方については、今後新病院の機能等を検討する事項のひとつとなると思いますが、瑞浪市と土岐市の人口に見合った病院規模となりますので、病院の統合により診療が受けにくくなることや、病床数が少なくなるようなことはありません。</p>			

地区名	土岐地区	番号	2
タイトル	なぜ?どこが?どうして災害時、ここが危険なのか!?		
ご意見の内容			
<p>最近のニュースを見るとコロナウイルス関係のニュースが目につく日々が続いています。そして、もう一つ皆の関心を集めているニュースは、今までの常識では考えられないほどの災害をもたらしている水害・土砂災害のニュースです。</p> <p>そういった状況の中、各行政機関が提示しているハザードマップへの関心も高まっていると感じます。しかし、そのハザードマップで危険地域と指定された場所がなぜ危険なのかと理解している地域住民は皆無です。市内でも大きな災害がいつおこるかわからない状況の中、この事は大きな問題ではないでしょうか。</p> <p>私の要望としては、ハザードマップをよりよく活用するためにマップの現地確認と付随する危険要素の机上訓練実施を定期的に行っていただきたいと思います。</p> <p>方法としては、1、市のハザードマップ管理課の職員、消防署等の担当者等が地区住民と指定地域と一緒に足を運び、より細かい説明の実施。2、同職員、担当者による座学での知識獲得。以上二つの方法を提案します。</p> <p>尚、現在市より各家庭に配布されている「防災ガイドブック」には、ハザードマップの記載がありません! 今後作成されるものには、子どもからお年寄りまで誰が見ても理解できるハザードマップの記載が必須ではないでしょうか!</p> <p>今後の気象変動によっては、予測に反する災害発生が市内でも考えられるだけに、各地域の防災意識を高めていくことが重要です。</p>			
市長の回答	担当課	土木課・生活安全課	
<p>【土木課】</p> <p>瑞浪市ハザードマップにつきましては、現行のものは平成24年に作成したものであり、今年度更新作業を進めています。この作業の中で、地域におけるワークショップを開催する予定ですので、その際に改めて地域の皆さんへ内容についてご理解いただくようにいたします。</p> <p>【生活安全課】</p> <p>市では、これまで、区や組を対象とした小規模防災訓練を継続的に実施しており、昨年度は、地区や各種団体等に対し36回実施しました。瑞浪市は、山や崖、河川といった地理地形上の特性が多様であり、地域に応じた対策が必要であるとの考え方から小規模単位で個別に対応させていただいております。防災訓練の実施方法は、各地区の要望を受け、地区ごとの災害リスクに応じて必要と考えられるメニューを提示させていただいております。ご意見にあります「マップの現地確認」や「危険要素の机上訓練」については、これまでも対応しておりますので、自治会などからの申込みをお願いします。市生活安全課、消防本部ほかみずなみ防災会などの防災団体が積極的に対応させていただきます。</p> <p>机上訓練については、これまで、「災害図上訓練(DIG、LET)」を実施しており、昨年度からは、「災害・避難カード」作成講習を実施しています。これは、風水害から命を守るために、的確な状況判断と適切なタイミングでの避難の必要性があることから、避難の手順を一目で分かるように整理したカードの作成を通し、自助の意識を高めていただく取り組みです。地図上にハザードマップを落とし込み、自宅から避難先までの経路や、情報取得の方法、非常用持出品の確認や準備などを事前に決めておくものです。令和元年度に、市内全域で訓練の実施希望を募ったところ、土岐地区においては、益見区で2回実施しています。土岐川沿いの自治会区については、洪水に関してリスクがありますので、是非、積極的な参加をお願いします。</p> <p>最後に「防災ガイドブック」へのハザードマップの記載については、既にハザードマップを全戸配布していることと、ページ数の都合上、確認方法の紹介とさせていただいております。</p>			

地区名	土岐地区	番号	3
タイトル	ストップ過疎化！瑞浪市人口増加計画		
ご意見の内容			
<p>県下各市町村で行われている移住・定住制度ですが、我が瑞浪市でも推進されており個人的にも娘夫婦の移住・定住では大変有難い制度にあやかり感謝しております。今後もより多くの移住・定住があることを期待しているところです。未来ある瑞浪市にするには、人口の増加が不可欠だと考えます。現在進行形である過疎化の抑止にはどうすればよいかは瑞浪市だけでなく多くの地方自治団体が抱える問題だと思われれます。そんな中、この移住・定住制度をより活用しやすくできないでしょうか。例えば市内の過疎地域より集合地域への定住にも制度の適用を行い、ポツンと一軒家の減少を図れば、今後の市財政への負担抑制と新たなまちづくりにも繋がるでしょう。</p> <p>ところで、近年多治見駅周辺の開発には目を見張るものがあります。それに比べて瑞浪駅周辺の現状はというと…言葉もありません。やはりより多くの方に移住・定住したいと決意させるには、瑞浪駅周辺の活気を取り戻すことが不可欠です。よくマンション販売広告にうたっている「駅まで徒歩〇分」というキャッチコピーが相応しいと感じられる瑞浪駅周辺にならなければ、今後の移住・定住者の増加は見込めないと考えます。是非とも貴重な資産活用を推進し「新たな夢が生まれる駅前まちづくり」の実現を願っております。</p> <p>最後に、移住・定住者の増加を目的とした事業や制度は非常に大切なことです。そして、瑞浪市に住んで良かった。なんて住みやすい都市なのだろう！と満足して住み続けてもらうことこそ目指すところではないでしょうか。その為には、子どもの育児・教育の満足度は重要です。先日、天徳こども公園のブランコで使用されている木材の腐食が激しく、いつ壊れるか解らないので、地域住民の方が善意で修理してくれたという話を聞きました。安全検査は合格になっていたと聞いています。区長への報告がなかった点は否めませんが、安全点検での早めの対応が可能になる安全基準値の設定をお願いしたい。小さなことなのかも知れませんがこういった部分での満足度の向上が住みやすい街みずなみの第一歩ではないでしょうか。</p>			
市長の回答	担当課	市民協働課・都市計画課・子育て支援課	
<p>【市民協働課】 市では制度改正を行い、現在、令和2年1月2日以降の転入者で新築・中古住宅を取得され、市内に移住された方に対し、10万円分の商品券を3年間、総額30万円分の商品券を奨励金として交付しています。この制度は、令和5年1月1日までの住宅取得者が対象となっています。今後も、移住定住イベントで瑞浪市のPRや移住相談を行っていきます。</p> <p>【都市計画課】 現在、瑞浪駅周辺まちづくり基本計画を策定中で、そのキーワードは「未来の子供たちに渡せるまち」です。未来の子供たちが暮らしたいと思えるまちづくりが今必要であると考えます。さまざまな地域から学生が集う瑞浪市の特性を活かし「瑞浪らしさを活かした多世代交流空間」を創り上げたいと考えています。瑞浪駅周辺に人々が集う新たな賑わいを創り出す。建物の老朽化と商店街の衰退が進んだまちなかをつくり変え、周辺地域も含めて賑わいを持続させる。そんなまちづくりを市民の皆さんと共に進めていきたいと考えています。 瑞浪駅周辺居住について、再開発可能性調査の中では小規模または賃貸のマンション需要はありそうです。民間企業がマンション事業として行う規模には達しないとのデベロッパーヒアリング結果でした。</p> <p>【子育て支援課】 児童遊園地の遊具は、本市が、毎年、専門業者に委託して目視検査と超音波検査(塗装被膜内に亀裂などが無いかの検査)を実施し、その結果を基に修理しております。児童遊園地の草刈りや遊具の塗装などの維持管理は、児童遊園地のある区の区長さんに依頼しており、本市から修繕に必要なペンキなどの資材を支給しています。天徳こども公園につきましても、平成30年度に一日市場区に遊具の補修用資材(ペンキ・刷毛・紙やすり)を支給しており、令和元年度に実施しました遊具点検では委託業者から異常なしとの報告を受けておりました。 毎年、児童遊園地の遊具の点検を実施してはおりますが、毎年4月に児童公園の維持管理を実施している区長さんに児童遊園地の維持管理についてお手紙で依頼しておりますので、児童遊園地について何かお気づきの点がございましたら、子育て支援課までご連絡ください。</p>			